

一九七七年以前出土の木簡（一一）

島根・出雲国庁跡

- 1 所在地 島根県松江市大草町
- 2 調査期間 一九六八年（昭43）八月～一九七〇年一二月
- 3 発掘機関 松江市教育委員会
- 4 調査担当者 山本 清・坪井清足・町田 章 他
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 七世紀末～九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

出雲国庁跡は、出雲国分寺の南1kmのところに位置しており、国庁の正殿とその北方の庁舎部分で発掘調査が行われ、正殿をふくめて掘立柱建物一二棟、溝十数条、塙七条が検出されている。発見された国庁の建築遺構は、国庁内から出土した土器の年代から、七世紀から九世紀ころまでのものと判断される。遺構は五時期に区分される。木簡は国庁の北辺にあたる東西溝の正序北方にあたる地点と、

西辺にあたる南北溝とから合計一二点（南北溝一点）出土している。東西溝は幅一・五m、深さ約五〇cmをはかり、南北溝もほぼ同規模のものである。国庁域内からは「厨」「酒杯」「国」「元」「淨成」「賀」「石□」「□女」「大」「少目」などの墨書き土器と「市□」「由」「門」「社辺」などのへラ書きをもつ土器が出土している。また一九四三年には「春」の印文をもつ銅印一顆が発見されている。

8 木簡の釈文・内容

(1) 大原評 □部 □□

(2) 「進上兵士財□□□

・「□

(114)×34×5 081
(62)×(13)×3 081

(3) □マニ百代

(1)のみが南北溝出土、他は東西溝出土である。

9 参考文献

- 松江市教育委員会『出雲国庁発掘調査概報』（一九七〇年）
島根県教育委員会『史跡出雲国府跡』（一九七五年）（鬼頭清明）